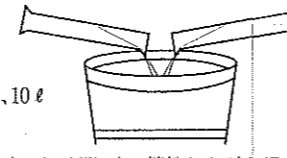

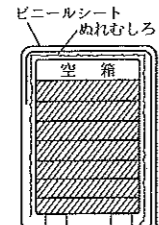
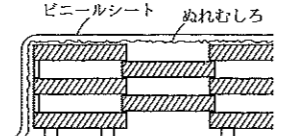




1. 育苗手順(稚苗・中苗)

<p>① 種子の準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ○良質米生産のためには毎年種子更新を行う。 ○奨励品種(コシヒカリ)を用いる。 ○10a当たり4kg準備する。 	<p>② 塩水選</p> <p>新鮮生卵による比重調整</p> <p>塩水の作り方</p> <table border="1"> <tr><td>水10ℓ当たり食塩(精製)</td><td></td></tr> <tr><td>うるち</td><td>約1.5kg</td></tr> <tr><td>もち</td><td>約1.1kg</td></tr> </table> <p>水面に百円玉大に浮く</p> <p>1.10 うるち</p> <p>1.00 水</p> <p>1.08 もち</p> <p>○選別後、塩分が完全にぬけるよう流水で数回洗う。</p>	水10ℓ当たり食塩(精製)		うるち	約1.5kg	もち	約1.1kg	<p>③ 種子消毒</p> <p>スミチオン乳剤 10cc (1000倍) 心結線虫 ヘルシードTフロアブル 50cc (200倍) ばか菌病、ごま葉枯病、いもち病</p>  <p>水、10ℓ</p> <p>○混合液に24時間、時々攪拌しながら浸す。 ○薬液の温度は10℃以上とすること。</p>	<p>④ 浸種(7日間)~催芽</p> <ul style="list-style-type: none"> ○真水を用い、停滞水中に充分浸種する。 ○水は毎日取り替え、種粉を上下によく混ぜる。 ○種粉が、はと胸状になったら止める。 ○積算温度100℃で、はと胸状になる。(15℃で7日間)  <p>正しいはと胸状 伸びすぎ</p>	<p>⑤ 床土入れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○床土の準備:山土を利用する場合は、冬期に乾燥させておく。 ○稚苗のとき 20箱以上、100ℓ ○中苗のとき 30箱以上、150ℓ (みどり培土を用いてもよい。) ○育苗箱はよく洗い、日光でよく乾燥させる。又は薬剤消毒(イチバン、1,000倍に瞬間浸漬)する。 ○土のpHは4.5~5.5が最適。 ○床土は均一に入れるように注意する。 	<p>⑥ 播種</p> <ul style="list-style-type: none"> ○種をまく前にダコニール1000 500倍液 (水10ℓに20cc) ○播種量(催芽粉) <table border="1"> <tr><td>稚苗</td><td>170g (1.5合)</td></tr> <tr><td>中苗</td><td>120g (1合)</td></tr> </table> <p>少し空間をとる 置土 初</p> <p>1箱に500cc灌注</p> 	稚苗	170g (1.5合)	中苗	120g (1合)				
水10ℓ当たり食塩(精製)																			
うるち	約1.5kg																		
もち	約1.1kg																		
稚苗	170g (1.5合)																		
中苗	120g (1合)																		
<p>⑦ 芽出し(3日) 適温30℃</p> <ul style="list-style-type: none"> ○温度を高めるため、日当たりの良い屋外で行う。(ハウス内が望ましい) ○10段以上積まない。 ○35℃以上にならないように管理する。 ○電熱育苗器利用の場合は芽を伸ばしすぎないように注意する。 ○出芽長はふく土上0.5cm程度とする。 	<p>⑧ 積み替え(3日) 適温25~28℃</p> <ul style="list-style-type: none"> ○積み替え時、タチガレン液剤500倍液を灌水を兼ねて灌注する。 ○3cm以上芽を伸ばさないよう注意する。 	<p>⑨ 緑化 適温15~20℃</p> <ul style="list-style-type: none"> ○芽が3cmになったらトンネルにより緑化する。 ○夜間の温度を15℃以下にしないよう管理する。(むれ苗が出やすい) ○灌水は午前中に行ない、夕方を避ける。 	<p>⑩ 硬化 適温15~18℃</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ひき続き夜間の保温に努め最低10℃以上を保つ。 ○灌水は午前中に行ない、夕方を避ける。 ○寒風害に注意し、北側に防風垣などを設ける。 ○田植前7日頃から徐々に外気に慣らす。 ○中苗育苗の場合、1葉期と3葉期頃に水10ℓに対し、キッポ青を200cc溶かして20箱に均等に散布する。但し、合成培土使用の場合は生育に応じて加減する。 	<p>⑪ 田植</p> <p>田植の目安(健苗の基準)</p> <table border="1"> <tr><th>苗の種類</th><th>育苗日数</th><th>葉齢</th><th>草丈</th><th>平均気温</th></tr> <tr><td>稚苗</td><td>28日</td><td>2.2葉</td><td>12~13cm</td><td>14℃以上</td></tr> <tr><td>中苗</td><td>35日</td><td>3.2葉</td><td>15~16cm</td><td>14℃以上</td></tr> </table> <p>○田植前日にイネミズゾウムシ、縞葉枯病(ヒメトビウンカ)、萎縮病(ツマグロヨコバイ)、いもち病予防のため、オリゼメートオンコル粒剤を箱当たり必ず50g散布し、灌水する。 ○1株3~5本植とし、1m当たり24株以上確保する。</p> 	苗の種類	育苗日数	葉齢	草丈	平均気温	稚苗	28日	2.2葉	12~13cm	14℃以上	中苗	35日	3.2葉	15~16cm	14℃以上
苗の種類	育苗日数	葉齢	草丈	平均気温															
稚苗	28日	2.2葉	12~13cm	14℃以上															
中苗	35日	3.2葉	15~16cm	14℃以上															

2. 本田:栽培及び防除基準(コシヒカリ) ①印は必須防除です

月	項目	生育と管理作業	病虫害名	農薬名	10a当たり使用量	防除上の注意事項
4	上	荒耕し	ヒメトビウンカ(縞葉枯病)	※3月下旬から4月上旬の越冬成虫発生盛期の荒耕しにより、産卵防止並びに生息環境を防除する。		
	中	水管理 深水	いもち病 イネミズゾウムシ ヒメトビウンカ ツマグロヨコバイ	オリゼメートオンコル粒剤	箱当たり50g	○箱施薬後、イネミズゾウムシの飛来成虫の密度の高いときは移植後2~3週間後にシクロバック粒剤を10バック散布する。
	下	深水				
5	上	間断かん水				
	中	または浅水				
	下	深水				
6	上	中干し				
	中	最高分けつ期 溝切り作業	◎穂いもち(予防) 紋枯病 白葉枯病	オリブライト1キロ粒剤	1kg	○溝切り機を利用し中干しを励行する。 ○目標穂数の8割の莖数になったら中干しに移る。 (目標1株平均18本なら15本より中干し) ○葉いもち初発から収穫45日前(6/中)までに散布する。
	下	深水				
7	上	穂肥(1回目)				
	中	穂肥(2回目)	◎コブノメイカ・ウンカ類	バダントレボン粉剤DL	4kg	○カメムシ防除のために、出穂10日前に畦畔の草刈りを行う。 ○パタン剤は露がとれてから散布する。 ○カメムシの防除は、穂揃期の夕方に一斉に防除する。 ※紋枯病多発田ではバリダシン粉剤を散布する。 ○穂揃期の10日後、夕方一斉に防除する。
	下	間断かん水	◎カメムシ類・ウンカ類	クラップ粉剤DL	4kg	
8	上	落水	◎カメムシ類・ウンカ類 紋枯病	バリダレボン粉剤DL	4kg	○ウンカ類の発生が多い場合はバッサ粉剤を散布する。
	中	深水				
	下	深水				

○出穂期とは、全莖数の40%~50% 落水と適期刈取りの目安(出穂後) 適正乾燥の目安(水分率)
出穂した日。 玄米冷却時14.5~15.5%
○穂揃期とは、全莖数の80%~90% ※機械乾燥の場合、余熱を考慮し、16%程度で火を止める。
品 種 落 水 刈 取
コシヒカリ 27日 31日

※ プラシンジョーカー粉剤DLは稲発酵粗飼料用箱には使用しない。

※適正な水管理の実施(作溝による中干し・早期落水防止)!!

※小株密植・株数確保し増収を(目標一坪80株)!!

3. 施肥基準(10a当り)

基肥 (N-P-K)	總肥				合計の N-P-K	摘 要
	1回目 肥料名 (N-P-K)	量	2回目 肥料名 (N-P-K)	量		
BB有機入り 五島産米ヒカリ 専用肥料 (8%-14%-12%)	くみあい BB ヒカリNK1号 (12%-0%-10%)	30kg	くみあい BB ヒカリNK1号 (12%-0%-10%)	5kg	N 4.2kg P 4.2kg K 5.1kg	○穂肥の時期(7月15日出穂の場合) 第1回:出穂の18~15日前(6月27~30日頃) 第2回:出穂の10日前(7月5日頃) ○施肥量は、生育と気象により増減する。
【土づくり対策】 <改良資材>	一般田……鉄カリン80kg または 鉄5郎80kg 秋落ち田……鉄カリン80kg+B M苦土重焼りん20kg または 珪鉄300kg+B M苦土重焼りん20kg					
<完熟堆肥> <深 耕>	1,000kg 目標土深 15cm以上					

4. 除草剤使用基準(10a当り)

薬 剤 名	使用量	使用時期	対象雑草及び特徴	注 意 事 項
サラブレッドRXフロアブル	500ml	移植直後~15日 ノビエ2葉期まで	一年生雑草、ミズガヤツリ、ホタルイ。 使用前に容器を振って液を混ぜ、容器を大きく振って散布。 強風時の散布は、隣接作物への薬害と薬剤の拡散不良に注意。 SU抵抗性ホタルイ・アゼナなどに効果を示す。	◎軟弱徒長苗には使用しない。 ◎砂質土壌等湛水田での薬害注意。 ◎粒剤は3~4cmの湛水状態で散布し、そのまま4~5日保つ。 ◎フロアブル剤は散布後湛水状態を4~5日保つ。
トレディワイド1キロ粒剤	1kg	移植後5日~ ノビエ3葉期 (但し、移植後30日まで)	一年生雑草、ウリカワ、ミズガヤツリ、クログワイ、藻類による表層はく離。 SU抵抗性ホタルイ・アゼナなどに効果を示す。	◎ジャンボ剤は散布時に5cm以上の深水とし、その後通常の湛水深とする。
ミスターホームランドLジャンボ	小包装 10パック (500g)	移植後1~12日 ノビエ2葉期まで	一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ウリカワ。 葉や浮き草が多発していると拡散が不十分で、効果が劣る。 SU抵抗性ホタルイ・アゼナなどに効果を示す。	

※) 草種によって剤を選び、じょうずに使しましょう。

5. 農薬使用基準

農 薬 名	収穫前使用時期	総使用回数	農 薬 名	収穫前使用時期	総使用回数
スミチオン乳剤	播種前	1回	バリダシン粉剤	14日前	-
ヘルシードTフロアブル	浸種前	1回	プラシンジョーカー粉剤DL	21日前	2回以内
ダコニール1000	播種時	1回	バダントレボン粉剤DL	21日前	3回以内
タチガレン液剤	発芽後	1回	バリダレボン粉剤DL	14日前	3回以内
オリゼメートオンコル粒剤	移植3日前~前日	1回	バッサ粉剤DL	7日前	5回以内
シクロバック粒剤	60日前	4回以内	クラップ粉剤DL	14日前	2回以内
オリブライト1キロ粒剤	45日前	1回			

※病虫害発生情報を電話でサービスしています。

TEL 74-2999へどうぞ!!

平成21年1月22日作成

※良質米生産のために種子更新を徹底しよう!

※追肥重点!穂肥のやれる施肥設計!!

※農薬散布はマスクをつけて安全に地域ぐるみで適期防除!
※農薬使用時には必ずラベルを確認しましょう!!
※粉剤の使用については飛散に注意しましょう!!

適期刈取り適正乾燥!!